

# 花と緑の銀行だより

189号 2013.9



氷見市花壇コンクール優秀花壇視察研修 速川保育園（氷見支店）

## 目次

- ・花と緑の提言〈氷見市の花と緑の推進事業について(氷見支店)〉…………… 2
- ・活動事例〈五ヶみち花壇「後世に残したい町並み」(砺波支店)〉…………… 3
- ・技術講座〈始めよう楽しい花壇作り3〉…………… 4
- ・技術講座〈富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン<sup>®</sup>〉…………… 5
- ・写真コーナー〈平成25年度富山県花のまちづくりコンクール〉…………… 6
- ・この人あり〈滑川市制60周年記念花壇づくり(滑川支店)〉…………… 7
- ・情報コーナー〈財団設立40周年記念・第41回花と緑の大会〉…………… 7

## 氷見市の花と緑の推進事業について

氷見市都市計画課

課長 河原悦郎

氷見市は、第7次氷見市総合計画（平成14年から10年間）の中で、長期的な視点で取り組むまちづくりの一つに「四季を彩る花とみどりの庭園都市づくり」を掲げ、「花とみどりのまちづくり」に取り組んで参りました。さらに、第8次氷見市総合計画（平成24年から10年間）では「きれいに満ちたまち総合プロジェクト」を掲げ、自然景観や生態系などを保全・活用するとともに、地域を花と緑で彩るなど、快適な居住空間づくりに取り組んでいます。

現在、氷見市の事業としては、花苗や園芸資材の配布等の花いっぱい運動や花壇コンクール開催事業、ハンギングバスケットの設置事業等を行っています。

また、花と緑の銀行氷見支店の事業活動としては、年2回の「頭取会議」や県・市の花壇コンクール優秀花壇の視察や講演会等開催する「頭取・グリーンキーパー合同研修会」、花壇の土づくり・管理方法等について学ぶ「頭取・グリーンキーパー合同実習」などを実施しています。



活動1 花壇管理について学ぶ  
頭取・グリーンキーパー合同研修会

さらに、一般財団法人氷見市花と緑のまちづくり協会では、氷見市からの受託業務として氷見市海浜植物園の指定管理や花と緑の日曜学校の開催に加え、協会事業として押し花絵・フラワーアレンジメント等の教室講座や漂着物アート・写生画コンクール・菊花・椿・雪割草等の展示会、緑花団体の支援、園芸・緑の相談業務など広範囲な事業を、積極的に展開しています。

また、毎年開催している「ひみ花とみどりのフェスタ」は、市内の緑花関係者で組織される実行委員

会が主体となり開催しているもので、本市の花と緑に関する最大のイベントとなっています。事業内容としては、寄せ植え体験教室や寄せ植えコンテスト、山野草展、押し花絵展等花と緑に直接関連するものの他に、花と緑をテーマにした芸術作品の展示やコーラス等の発表等のコーナーも設け、緑花関係をはじめ多くの市民の皆さんに、幅広く花と緑の魅力をPRする契機となっています。



活動2 多くの人が参加した「ひみ花とみどりのフェスタ2013」寄せ植え体験教室

このように、氷見市では、市と花と緑の銀行氷見支店、一般財団法人氷見市花と緑のまちづくり協会が連携を図りながら、それぞれ各地域あるいは市全域で各種の事業を展開しており、その結果、地域・学校・保育園等での様々な緑花事業等が行われ、また緑花ボランティア団体も活発に活動するようになってきました。

これからの事業については、現在取り組んでいる第8次氷見市総合計画で、市内各地区での「緑花推進協議会」設立支援を目標に掲げています。この「緑花推進協議会」は、各地域における緑花事業を自治会組織と連携して実施していくもので、この第一歩として、頭取・グリーンキーパーがそれぞれの地域で自治会組織と連携を図りながら花と緑に関する指導・計画策定等を行いやすくするために、平成24年度末から頭取等の選出に各地区自治振興委員に関与していただくこととしました。今後は、この「緑花推進協議会」をキーワードに、市内各地域で自治会と緊密な連携のもと花と緑の推進に取り組んで参りたいと考えています。



## 五ヶみち花壇「後世に残したい町並み」

花と緑の銀行 砺波支店

種田地方銀行 頭取 川辺晴久

### 1. 種田地区の位置と特有の気候

種田地区は砺波市の南部に位置し、日本でも有名な水稻種もみの産地で、緑豊かな散居村の風景が広がり、「庄川嵐（しょうがわあらし）」と呼ばれるこの土地特有の強い南風が吹きます。

### 2. 花壇づくりのきっかけ

2000年国体に向けて、平成9年から旧庄川町で行われた剣道競技会場周辺道路の環境美化の一環として活動が始まりました。

当初は婦人会会員が中心となり、プランターを並べて全国の選手を花で迎えました。その後、五ヶ自治会は県から県道敷歩道部の維持管理を委託され、本格的な花壇づくりが始まりました。それ以来、地区の環境美化への関心が高まり、年々植栽面積が増え現在に至っています。



写真1, 五ヶみち花壇（メイン花壇）

### 3. 花壇の特徴

県道本町高木出線の道路敷地内にあり、宅道を2本挟んだ6区画420㎡からなる全長約150mの花壇です。今年の花壇のテーマは、緑と白を基調とした「緑と白の夏色ハーモニー」です。品種は、コキアやマリーゴールド（パニラ）、日々草の白色等で、赤くなりがちな夏花壇を涼しげに見えるように植栽しました。

また、メイン花壇の中央には、ガウラ（白）を川の流れをイメージして植え込み、花が風に揺れて優しさと涼やかさを演出しています。

### 4. 花壇づくりの工夫

長寿会や婦人会、子供たちと共に農村地帯の景観

に合った花壇づくりを行っていることや、初穀堆肥を敷き詰めることで乾燥を防ぎ雑草を押さえ、なるべく花壇管理に手をかけない工夫をしています。

また、花壇の後方に宿根草を植え込むことで奥行を出し、春から秋へと季節の順に長く花を楽しめるよう工夫しています。



写真2, 植え込みの様子

### 5. 問題と課題

現在49名の会員で活動していますが、少子高齢化が進み、種田花と緑の推進協議会のメンバーや婦人会会員も高齢化し、児童クラブも児童数が減少しているため人材が不足しており、後継者の育成が課題です。

### 6. 波及効果と今後の目標

花壇を見に来てくださる方が沢山増え、花談義で交流を深めることができ、多くの人と情報交換が出来るようになりました。

今後、更に見ていただく方々に癒しと感動を与えるよう毎年工夫し、この街並みを後世に残せるように花壇づくりに励みたい。

### 7. 主な表彰歴

平成23年5月：全国みどりの愛護 国土交通大臣表彰

平成23年11月：富山県花のまちづくりコンクール

（花の道の部）最優秀賞

平成24年10月：富山県花のまちづくりコンクール

（花の道の部）優秀賞

## 秋から春まで楽しむ花壇について

富山県花総合センター

次長 金森松夫

今年も県内各地のすばらしい夏の花壇が、道行く人々の心をなごませてくれました。暑い夏の間、水やりや花がら摘みなど、日頃の管理をされている皆様の御労苦に深く敬意を表します。

さて、サルビア等夏の花が色あせた頃に冬から翌春まで咲いてくれる草花に植え替えます。その種類にはパンジー・ビオラ、ハボタン、近年人気が高いクリスマスローズなど、多くの種類があります。そこで、これら秋から春まで楽しめる花について紹介します。

### 1. パンジー・ビオラ

早春の花の代表であったパンジー・ビオラは秋植えが一般化され、10月から5月まで咲いてくれます。低温期の花壇の主役になっていますが、夏越しができないので1年草扱いです。

パンジーとビオラは、園芸上区別されていますが、学術的には同じものであり、明確な違いはありません。一般的には、花の大きいもの（直径5 cm以上）を「パンジー」、小さいもの（直径5 cm以下）を「ビオラ」と呼んでいます。

パンジー・ビオラは厳しい冬の寒さに耐えて咲く低温に強い特徴がありますが、さらに、花色が豊富であり、その配色だけでも花壇が作れます。

春になって、気温が上がって徒長し、草姿が乱れる場合には、切り戻しをします。切り戻しは下葉の枯れあがりや病気の予防にも効果があります。切り戻し後、緩効性肥料などを追肥します。

### 2. ハボタン

ハボタンも寒さに極めて強く、また秋の植付けから春の訪れとともにとうが立つまでほとんど草姿が変わらず、非常に長く観賞できます。

10月中旬には園芸店にハボタンが並び始めますが、近年、品種改良が進み、多種多様な種類がみられます。葉の形により、丸葉系、縮葉系、切れ葉系に分けられますが、さらに色の幅も広がり（赤、白、ピンク、覆輪）、コンパクトな作りの小形のものが加わり、品種選びが楽しくなります。

管理については、ほとんど手間要らずの品目ですが、日当たりが悪いと色があせる場合があるので、植え場所に注意して下さい。

### 3. クリスマスローズ

ロマンチックな名前は原種の一つヘレボルス・ニゲルがイギリスではクリスマスの頃から咲き始める

ことから、付けられました。

クリスマスローズは大別すると、およそ20種の原種とガーデンハイブリッドと呼ばれる交配種があります。開花シーズンは1月から4月であり、花の少ない時期に庭あるいは玄関を彩る鉢花として人気が高いです。

クリスマスローズの花びらは実はがく片であり、観賞期間を2～3ヶ月と長くしている所以です。

丈夫な宿根草であり、育てやすいですが、水はけと風通しには気を配ってください。エレガガーデンでは樹木下の半日陰地で放任栽培していますが、毎年3～4月に可憐な花が咲きます。

### 4. カレンジュラ

鮮やかなオレンジや黄色の花を咲かせる冬花壇の定番で、耐寒性1年草です。春先に切り戻すと株にポリウムがでます。

### 5. デージー

年内開花する極早生種もあり、春の高温時にも草姿が乱れないで咲いてくれます。夏越しができませんので、1年草扱いです。

### 6. ワスレナグサ

小さな可憐な花をたくさんつけます。花色は青が一般的ですが、ピンクや白色もあります。夏の暑さに耐えられないので1年草扱いで、チューリップとの混色が奇麗です。

### 7. まとめ

主に耐寒性の一年草について述べてきましたが、オダマキ、ルピナスなどの宿根草類にも秋から春の花壇材料がたくさんあります。また、チューリップを代表とする秋植え球根にも多くの種類があります。さらには、これらの混植により一層多様な花壇を作れます。



写真 ワスレナグサのモデル花壇（花総合センター）

## 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑮

## カラミンサ・ネペタ

カラミンサ・ネペタは、地中海原産のシソ科の宿根草です。初夏から、茎全体に白い小花が咲く姿は、さわやかな印象を与えてくれます（写真1）。また、宿根草花壇をデザインするには、たいへん役に立ちます。その理由は、花の咲く期間が長いこと、どんな花と組み合わせても引き立つこと、葉にミントの香りのおまけがあること、そして、植えたあとは、何もなくていいことです。もっとほかにもありますが、このぐらいにしておきます。



写真1：カラミンサ・ネペタ。草丈50cm程度。7月初旬

こんなに世話をやかせない宿根草は、他には見当たりません。逆に、こんなに何もなくてもいいのだろうか？と心配になるくらいです。する事といえば、小さな小花の中に描かれている、人のような顔を見比べて、その表情を楽しむぐらいです（写真2）。白に近い薄紫の花びらには、濃い紫の斑点がついていて、それが、目や鼻や口のように見えるのです。笑っている顔、怒っている顔、とぼけている顔など、たくさんの表情があります。そうは見えないと思われる方は、見えるまで花を眺めてみてください。ただ、小さすぎるので、がんばらないでください。

カラミンサ・ネペタの最大の特徴は、花の咲き方にあります。一つの花が咲くと、花の付け根から花



写真2：カラミンサ・ネペタの花。8月初旬。

職藝学院

教授 渡邊 美保子

茎が伸び、Y字に分かれて二本になり、その先に、それぞれ一つずつ花を付けます。一つずつ咲いた花の付け根から、再びY字に花茎が分かれて、また、その先に、それぞれ花を付けます。1が2になり、2が4に、4が8になり、8が16になるぐらいまで繰り返されます。この様子は、言葉で説明するよりも、ぜひ本物を育てて確かめることをおすすめします。3ミリ程度の小花ですが、それが倍、倍、に増えてゆきます。そんな、咲き方をしますので、開花期間がとても長いのです。一度に大きな花を咲かせるよりも、少しずつエネルギーを小出しにして、小花を咲かせてゆく生き方をします。6月末頃から、小さな白いつぼみをつけ始め、10月頃まで、のんびりと咲き続けます。花が終わっても、11月になると寒さで葉が赤紫色に変わってゆくので、花だけではなく紅葉も楽しむことができます。

カラミンサ・ネペタは、日当たりを好み、水はけの良い土であれば、よく育ちます。乾燥にも寒さにも強く、害虫もほとんど寄り付きません。草丈は50cm程度です。冬には、茎が枯れてゆきます。春になり雪が解けたら枯れた茎を根元から刈り込みます。4月中旬には地面からたくさんの新芽が数十本も伸びてきて、こんもりと茂ってきます。

組み合わせのコツは、カラミンサ・ネペタを手前にして、後ろに背の高い宿根草などを配置します（写真3）。白い小さな花が、茎全体にびっしりとついた咲き方をしますので、隣に植えた花を引き立たせてくれます。また、花壇に一株あるだけでも、十分存在感があります。夏にはすっきりとしたミントの香りと涼しげな白い花を楽しむことができます。利用法としては、花が咲く直前の茎を根元から刈り込み、つるして乾燥させますと、ミントの香りの芳香剤にもなります。



写真3：手前はカラミンサ・ネペタ、後ろは、ガウラ（桃色）、斑入りイトススキ、など。10月初旬。

## 平成25年度富山県花のまちづくりコンクール

### 学校花壇部門 最優秀賞 富山市立四方小学校



#### 【審査講評】

「四方っ子フラワーロード」の歌声の中、アーチをくぐると、蔓植物が這うトレリスの前面に広がる「スマイルクローバー花壇」。縁石と平行に走るクローバー。越冬したシロタエギクや宿根パベナの大株。同心円状に広がる花の輪。ジニアの各色がパッチワーク状に咲く円形の寄せ植え。見返りながら進むと巨大な魚、亀にも見えるデザインの妙。廃材の浮きを加工したオブジェが目。4月、5年生が総合学習で、地域のグリーンキーパーからプラグ苗の移植を教わり、花苗作りを始めたと聞きました。「フラワーロードを通ると、みんなが笑顔で元気になるよ」と児童が教えてくれました。

メインの大花壇は、環境委員会が中心となり全校児童がかかわる「はばたけ四方っ子花壇」…中心にペゴニアのハート、ハートの両横にハツキソウの羽を配し、花壇中央から大空に向かって羽ばたく翼をイメージ（全校児童の応募作品から採択）。「あの翼は、奥の花の虹を飛び越えて行くんやぜ」と児童が教えてくれました。審査が終わり帰路のバスに向かうまもなく、「フラワーロード みんなでーちからーあわせてーがんばってーつくったーきれいなーフラワーロードー」（5年生児童が作詞したカントリーロードの替え歌）5年生の元気な歌声に背中を押され歩き出しました。

（審査委員長 松原 宣昭）

### 一般花壇部門 最優秀賞 富山市 西大沢花壇愛好会



#### 【審査講評】

花壇の特徴は、今年のような厳しい気象条件の中においても生育が極めて良好で、見た目にもやさしい色合いを感じさせる花壇になっていることにありました。加えて、中央の藤棚の東西に配置された幅の比較的狭い長方形の花壇には、奥の方に背丈の高い宿根草を、手前にはそれに見合った一年草を配置し奥行き感を出すなど、花壇の構造・特徴を生かす工夫が見られたことも特筆されます。

また、花壇の運営にあたっては、グリーンキーパーや自治会さらには地域住民からの協力が得られることなどを励みに、世話をしている人たちの結束が強く感じられる花壇でもありました。

このように、花壇の構造や配置を生かした花壇づくりや地域住民に花を楽しんでもらおうとする努力が随所にうかがわれることなどから、総合的に高い評価が与えられました。

（審査委員長 名畑 清信）

### 幼稚園・保育所花壇部門 最優秀賞 富山市 四方保育所



#### 【審査講評】

例年のように海に近い地域性を活かした魚の花壇づくりに、今年のサブテーマ「しんかんせんがやってきた」が加えられ、定置網のうきで列車がルコソウのトンネルをくぐる動きのある設計と草花配置が目目をひきました。花はプランター主体ですが、管理が行き届いて、個々にしっかりした生育を示しており、職員や地域の方々のサポートが行き届いている様子が見て取れました。また、子供たちの対外的な活動の中に、メッセージを添えた南三陸町への収穫種子の送付があり、復興支援にも一翼を担っておられ好感がもてました。

（審査委員長 松下 真一郎）

### 花の道部門 最優秀賞 富山市 八尾園ふれあい花壇



#### 【審査講評】

救護施設利用者が花作りに取り組むユニークな団体で、過去3年間優秀賞に輝く花壇を作ってきた実績があります。秋に自家採取した種やこぼれ種から鉢上げして花苗を作り、街路樹の落葉を集めて作った腐葉土や自前の籾殻燻炭などを利用した培養土を使用するなど自然のサイクルを利用した花づくりを継続しています。今年は特にメインの花壇だけでなくカーブした坂道の両側の植栽がとてもカラフルでボリュームがあり、草花の開花時期も揃っていることが高く評価されました。斜面に作られているメイン花壇では竹のトンネルを設置して立体的に見せる工夫をするなど、園芸作業班が力を合わせて花壇づくりに取り組んでいます。地元の保育所や学校に花苗を配布したり、保育園児との交流会、通りがかりの人との花を通じた交流が年々盛んになっていることも花壇づくりの成果だと思えます。

（審査委員長 山田 信明）



## 滑川市制60周年記念花壇づくり

花と緑の銀行 滑川支店

田中地方銀行 頭取 **上田 一夫**

平成25年5月28日の花と緑の活動推進協議会総会で、新設のスポーツ・健康の森公園の一面に、樹木におおわれ、草花が咲きほこり、小鳥がさえずる公園となることを願って、市制60周年記念花壇づくりを満場一致で決定しました。

この公園は、上田昌孝市長（花と緑の銀行滑川支店長）がマニフェストに掲げ、生涯にわたってスポーツがオールラウンドにできる施設を目指して、平成23年度に東海カーボン跡地（面積8.5ha）に「幼児から高齢者までの健康・体力づくりの森づくりを」との思いで、着手されました。また、整備に当たっては、芝生の苗植えや植樹など実施し、できるだけ市民ボランティアの手を借りて、今年度末に完成する予定です。

この紙面を借りて、PRを兼ね施設の一部を上げさせてもらおうと、

- ①400メートル、8レーンの全天候トラック、天然芝のインフィールド
- ②多目的芝生広場（児童用サッカーコート2面可）
- ③複合遊具、ターザンロープ等の子どもげんき広場
- ④高齢者の体力を落とさないための運動遊具を備えた長寿いきいき広場等です。



9地区の頭取・グリーンキーパーが5月に30、31日の2日間で花壇づくり、6月9日に花苗植栽（宿根なでしこ、ペコニア計530ポット）を行いました。その後の一番大変な花壇の維持管理（水やり、草むしり、花がら摘み）と今後の取り組みについては頭取・役員会で次のように決定しました。

・7月～10月の4か月間、9地区の地方銀行が順番に1週間単位でやる。

・年2回（春・秋）花苗の植え込みをする。

名実ともに市民に愛されるスポーツ・健康の森公園にふさわしい樹木や草花になるには長い年月がかかると思われますが、日々見守っていきたくないと決意を新たにし、今夏の猛暑にも負けず水やりを続けています。

### 〈情報コーナー〉

#### 「財団設立40周年記念・第41回花と緑の大会」を開催します

平成25年10月16日（水）午後1時30分から、富山県民会館において「財団設立40周年記念・第41回花と緑の大会」を開催しますので、多数のご参加をお待ちいたしております。

##### ◎主な内容

- ・功労者の表彰、感謝状の贈呈
- ・平成25年度富山県花のまちづくりコンクール表彰式
- ・花と緑の銀行マスコットキャラクターの発表
- ・花と緑の記念講演

演題「身近な草花でつくるナチュラルガーデンの魅力」

講師 ガーデンデザイナー、ホーティカルチャリスト

ポール・スミザー氏

（英国生まれの園芸家。山梨県清里村で八ヶ岳の自然と共生する庭づくりに取り組んでいる。）

##### ◎同時開催

- ・銀行活動の特別展示～この10年のあゆみ～
- ・平成25年度花と緑のコンクール入賞作品および花壇写真展示

表紙写真：「氷見市花壇コンクール優秀花壇視察研修 速川保育園」（氷見支店）  
裏表紙写真：「谷間のフウリンウメドキ（南砺市梨谷）」…写真提供 長谷川幹夫



・新たに作成した花と緑の銀行のマスコットキャラクター



「谷間のフウリンウメモドキ（南砺市梨谷）」



**花と緑の銀行だより 189号**

発行日 平成25年9月

編集発行 公益財団法人 **花と緑の銀行**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

**富山県中央植物園**

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

**県民公園頼成の森**

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranijyounomori/>

再生紙を使用しています。